

子どもたちのことを一番に考え決断 佐沼小学校で新たな歴史を刻む

昨年4月に森小学校のPTA会長に就任しました。その就任2日目に市の教育委員会から佐沼小学校との統合の話がありました。

当時は、われわれPTA執行部をはじめ多くの保護者が統合に反対でした。森地区コミュニティの中核を担ってきた小学校がなくなることの危機感と、子どもたちをこの森小学校から卒業させてあげたい思いがあったからです。

森小学校140年の歴史の中で最大四百数十名いた児童も、今はもう41名。森地区でも年々少子化が進んでいて、来年度の新入学生の状況からは、全クラスが複式学級となる事態も予想されていました。PTAや地域の方々と幾度

となく話し合いを重ね「子どもたちにとって何が一番良いことなのか」を真剣に考えました。最後は、皆さん断腸の思いながらも、全会一致で統合を決断しました。

4月からは佐沼小学校への統合となります。森小学校の児童は、今も昔も上級生が下級生の面倒を見て、下級生がそれを学び上級生を慕い、思いやりの心、優しい心、そして忍耐強くたくましい心を育みました。子どもたちには「森っ子」であることの自信と誇りを持ち、佐沼小学校でもたくさんのことを学んでほしいですね。今後は、佐沼小学校、佐沼地域の皆様との交流を深め、新しい歴史を共に築いていきたいと思っています。



森小学校PTA
けんじ
会長 鈴木 憲司 さん
(迫町・赤沼)

森小学校の統合に向けて準備を進めている3人の関係者に 統合への思いを聞きました



森小学校・森幼稚園閉校・閉園
記念誌編集委員会
委員長 芳賀 勝美 さん
(迫町・平柳)

森小学校PTAの副会長で、森小学校・幼稚園の閉校・閉園記念誌の編集委員長をしています。編集委員は、PTA執行部と広報部、歴代PTA会長で組織する「さくら会」の方々が構成しています。

時間がない中で編集作業でしたが、記念誌にはこれまで積み重ねてきた歴史・資料のほか、関係者の方々に寄稿をお願いしました。地区の方々や卒業生などの熱い思いが寄せられています。別冊で製作する幼稚園の記念誌には、森幼稚園40年間の入園式か卒園式の集合写真をすべて載せることができそうです。

望がある方にはお譲りしたいと考えています。私の子どもは、森小学校の在校生に5年生の息子と3年生の娘がいて、4月から佐沼小学校に通います。子どもたちも、最初は森小学校から佐沼小学校に変わることにな不安があったようです。それでも佐沼小学校の子どもたちと交流会を重ねるうちに、新しい校舎に通うのを楽しみにするようになりました。子どもは子どもなりに、いろいろな考えを持っているでしょうね。

森小・幼稚園への熱い思いまとめる 地区の方々にも見ていただきたい

地域の子どもたちは地域で育む 統合してもその理念は変わらない

森地区子ども会育成会の会長をしていることもあってか、統合準備委員会の委員長になりました。昨年9月に準備委員会が発足し、統合までの時間がない中、検討・準備を進めてきました。

森地区は、地域全体で子どもたちを育む体制が確立されていると思っています。森地区子ども会育成会の事業のほとんどが、コミュニティ推進協議会をはじめとした各種団体との共催で行われています。このことは他地区にはない森地区独特の形態です。諸先輩方が試行錯誤の末築き上げてきた貴重な財産といえます。

森小学校を核として森地区のコミュニティが形成。みんなが「おらほの学校」との思いを持ち、学校の環境整備をはじめ、さまざまなかたちで139年間、世代をつなぎ関わってきました。

平成25年度から佐沼小学校と統合になりその核を失うことは、森地区にとって過去に経験したことのない変革を求められることでもあります。今こそ、これまで培ってきた



森小学校・佐沼小学校統合準備委員会
委員長 鈴木 香 さん
(迫町・西表)

特集 さよなら。 森小学校

地区住民の絆の強さが試されるときではないでしょうか。森小学校がなくなっても、地区の将来を支える児童・生徒がいなくなるわけではありません。これまでどおり「地域の子どもは地域全体で育む」の理念のもと、これから地区事業の中に子ども育成事業を取り入れていくことが、不可欠な要素だと改めて感じています。

今後、森地区の子どもたちが、佐沼小学校という大きな集団の中で萎縮することなく伸び伸びと学業に励めるよう、森地区全体で佐沼小学校や地区PTAと今以上に良い連携を再構築することが必要です。そのことが「森っ子」を育む私たち地域の役割だと思っています。



森小学校、佐沼小学校のPTA、地区住民、学校、市関係者らでつくる統合準備委員会。昨年9月に発足し、統合に向けて検討・準備を進めてきました